

平成30年度第2回<sup>もり</sup>森林の未来を考える懇談会資料

# 第1回ふくしま植樹祭の 開催結果について

平成30年12月27日

福島県農林水産部森林保全課



# 第1回ふくしま植樹祭～ABMORI～

## 趣旨

第69回全国植樹祭ふくしま2018の開催理念を引継ぎ、ふるさと再生への思いを込めた植樹活動等を行い、未来につなぐ希望の森林づくりを発展させることを目的とします。

なお、福島復興を応援するため、歌舞伎俳優の市川海老蔵さんが参加されました。

## 大会のコンセプト

### 未来につなぐ希望の森林づくり

未来を担う子どもたちに、美しいふるさとを継承するため、希望あふれる未来への思いを苗木に込め、県内外の多くの方々との植樹活動を通じて創り出す希望の森林づくり（「いのちを守る森」づくり=ABMORI）により、福島との共感の輪を広げていく。



○ 開催日 平成30年11月4日（日） 10:00～14:00

○ 会場 南相馬市鹿島区北海老地内の海岸防災林

○ 参加者 3,000名

○ 内容 記念植樹

植樹活動 27,000本(1.9ha)の苗木を植栽

【クロマツ 9,000本(1.5ha)、広葉樹 18,000本(0.4ha)】

交流イベント 木工体験、丸太切り体験、薪割り体験、豚汁・おにぎり等の配布ほか

多くの皆様の  
御支援と御協力ありがとう  
ございました。



## 開催状況



記念植樹



植樹活動



式典ステージ



植樹活動や交流イベントに  
参加いただきました



薪割り体験



丸太切り体験



木工体験



豚汁・おにぎり配布





# 森林づくり全国拡大 ふくしま植樹祭初開催

南相馬

第六十九回全国植樹祭の継続行事「ふくしま植樹祭」は、南相馬市鹿島区北海岸地区で開催され、県内外の参加者約三千人が参加した。県民のふるさとを豊かにしようと、これまで「ふくしまの森(もり)づくり」をテーマに、日本震災の被災被災地や、ロケットなどの苗木約二万七千本を運搬し、被災地や被災者に提供した。内堀雅雄知事は六月に同市鹿島区(とら)地区で催された全国植樹祭の理念を踏まえ、森林づくりを県民運動に発展させ、県民全域で推進する考えを示した。(31面に関連記事)

県森林・林業団体、福島民報社などによる実行委の主催。南相馬市復興市民植樹祭と合同で開催した。大会会長の内堀雅雄知事は「木々や草花などの成長と復興が豊かなふるさとを築いていけるよう、植樹祭を通じて、ふるさとを豊かにしよう」と語り、参加者の思いと祈りを込めた苗木が、未来の森を築く礎となることを祈った。代表者による記念植樹では、内堀知事、門田市長をはじめ、実行委員長の斎藤亨夫、森林林業・緑化協会長の吉田光興、県議会議長の伊藤の市川海老蔵さん、ふくしまの若手の野中美さん(須賀川市出身)と、折山晋世さん(和歌山県出身)らが地元の代表(おおみか)の少年団員と一緒に、クローンを着けて採取した種から育てられた苗木を植えた。

苗木を植えるよう呼びかけ、防除剤を散布する。約二十種類の苗木も盛り込んだ土壌改良剤も四輪で運搬した。

交流行事では、森林生産物販売や木工作品展示などが催され、大勢の人が本場の魅力に理解を深めた。県によると、震災の被災地による放射線物質の影響で、森林の回復が遅れている。震災は津波被災地や震災前の四倍の規模となる防災林帯を整備するが、整備・管理の担い手確保が課題となっている。全国的に聞かれた。

この取り組みも進むが、二〇二〇年度までの復興・創生期間終了後の事業の財源確保は不明瞭が残る。県はふくしま植樹祭を被災地や全国の団体・企業から人手などの協力を呼びながら、森林再生を進める仕組みづくりに取り組んだ。



記念植樹をする(左から)吉田議長、海老蔵さん、門田市長、南相馬市鹿島区北海岸地区

この取り組みも進むが、二〇二〇年度までの復興・創生期間終了後の事業の財源確保は不明瞭が残る。県はふくしま植樹祭を被災地や全国の団体・企業から人手などの協力を呼びながら、森林再生を進める仕組みづくりに取り組んだ。

本県沿岸部の復興を目指す「ふくしま植樹祭」に集まった参加者



# 復興の姿 思い描く

## 福島県の「つなぎ役」担う

「ふくしま植樹祭」に「つなぎ役」を担う。参加した関係者。加えて、復興の現場に思いを馳せる。本がなまなり、十数年のつなぎ役

距離はあるが、震災を忘れてはいけない。今回のように足を運ぶことは復興の現場などにいる多くの人の意見を聞き、全国の人が理解を深めたい。復興の現場に思いを馳せる。本がなまなり、十数年のつなぎ役

## 伊藤 中川海老蔵さん

「ABMORI(エブモリ)」と銘打った植樹活動を進めていく。伊藤中川海老蔵さんは、震災の記憶を風化させない取り組みを続けたいと、震災をきっかけに植樹作業後、被災地を訪れ、全国の人が福島に思いを馳せるきっかけに今後を模索する。

が協力した。「植樹は子どもたちがなければできない。大人はまっかけをしよう。早く復興を果すが、ABMORIは子どもたち」。「福島は子どもたち」関わっていくが。「東京と福島は」



開会式で本県への思いなどを語る海老蔵さん

天皇、皇后陛下をお迎えして六月に南相馬市原町区豊(とよ)地区で植された樹木十九回全国植樹祭には全国から約八千人が集まった。本県沿岸部の復興のシンボルとなる海岸防災林を再び国民の力を合わせて植えよう。四回「ふくしま植樹祭」は約千

## 3000人、会場に熱気 全国植樹祭の誓い再び

人が県外から詰め寄り、会場を熱気包んだ。三善市の中郷小の少年団の山田海久仁(みづに)君(二六)年は初めて全国植樹祭を訪れた。「復興は自然がとも豊かに感じた。気持ちよく木を植えた。白い樹葉のざわめき。『未来は、もろもろの人が集まる場所にならしてほしい』と未来を思い描いた。相馬市の山本小の少年団の山本泰(ら)さん(三六)年は「天を告げて私たちが守りたい」と誓いを引き締めて作業に没頭した。『木として参加』なら、つぎは自分たちの女神の跡をさがす。『自分の手で植えた木が、この先もこの地に根付いていようと、作業に携われたことを誇りに感じる』と語った。

平成30年11月5日 福島民友(1面)

# 森林づくり 次世代に

## 南相馬で「ふくしま植樹祭」

### 陛下の思い継承



クロマツの苗を植樹する緑の少年団員と市川海老蔵さん  
= 4日午前、南相馬市鹿島区(永山能久撮影)

「第1回ふくしま植樹祭『ABMORI』」は4日、南相馬市鹿島区北海老の海岸防災林整備地で開かれた。天皇、皇后両陛下を同市に迎えた6月の第69回全

国植樹祭の開催理念を引き継ぎ、参加者約3千人が緑豊かな県土再生を誓った。【31面に関連記事】  
第6回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭との共同開催。参加者は「未来につなぐ希望の森林づくり」を大会理念にクロマツ9千本や広葉樹1万8千本を植えた。

内堀雅雄知事が「全国植樹祭が一過性になっては意味が薄れる。未来の世代に森林づくりを『つなげたい』と主催者あいさつ。門馬和夫市長が「命を守る植樹活動を継承する決意を新たにしている」と述べた。長野県の志賀高原で森林再生事業「ABMORI」を主宰

する歌舞伎俳優の市川海老蔵さんも特別顧問として参加。異常気象に警鐘を鳴らすとともに、海岸防災林を整備する意義を語った。ふくしま植樹祭は県、同

市、県森林・林業・緑化協会、福島民友新聞社などでつくる実行委の主催。福島民友新聞社からは菅野篤取締役総務局長が出席した。

次回以降は県内各地で開催予定。全国植樹祭の会場跡地には本年度中に天皇陛下の詩歌を刻む記念碑を建立して、緑化運動に取り組み本県の象徴とする。

ふくしま植樹祭

社説

木を植えることが人と人をつなぎ、森林づくりや復興の歩みを加速させる力になると信じてい

「ふくしま植樹祭」の初めての大会がきょう、南相馬市鹿島区で開かれる。テーマは「未来につなぐ希望の森林づくり」で、約3千人が参加する。クロマツなど2万7千本の苗木を植え、東日本大震災の津波で大きな被害を受けた海岸防災林の再生に取り組む。

「全国植樹祭」をきっかけに高まった県民参加の森林づくりの機運を引き継ぎ、今後の緑化活動につなげていくための新たな取り組みだ。きょうは、豊かな森林を守り育てる活動をさらに充実させていくための出発点になるだろう。

ふくしま植樹祭の企画や運営は、県や関係団体でつくる実行委員会が担う。今回は、会場の南相馬市が震災後、独自に開いてきた「鎮魂復興市民植樹祭」と共同開催する形を取る。市民植樹祭の会場にはタブノキなどの広葉樹の苗木

森を未来につなぐ出発点に

木を植える。

植樹祭は、全県的な植樹活動として展開する方針で、今後は他市町村での開催も視野に入れる。植樹祭の運営に開催地の意向を取り入れながら、住民に参加を求め、緑豊かな地域づくりの実現を目指すような取り組みにすれば、広く

県民に親しまれる行事として定着していくのではないかと。

きのうは、県内の緑の少年団が集う初めての「次世代を担う子供たちによる森林づくり会議」が伊達市で開かれた。少年団の代表が活動を報告し合い、将来の森林づ

くりの課題などについて意見交換した。団員らはきょう、ふくしま植樹祭に参加する。

植樹した苗木が成長し、海岸防災林としての役目を果たすまでには長い時間がかかる。それを見守り、育てていくのは今の子どもたちだ。未来を担う子どもたちが学

校や緑の少年団の活動などで森林を育むことの大切さを学び、実践する場として、植樹祭や身近な場所での植樹を生かしたい。

6月の全国植樹祭は、全国各地からの参加者に「福島のみま」を知ってもらおうという役割があった。今回のふくしま植樹祭にも長野県で森林づくり活動「ABMORI」を手掛けている歌舞伎俳優の市川海老蔵さんらをはじめ約500人が県外から参加する。

春の新緑から夏の深緑を経て、秋の紅葉まで、木々は本県の四季を彩る。冬に緑をたたえる常緑樹もある。ふくしま植樹祭には引き続き県外からも参加を呼び掛け、森を見たら本県を思い出す人々の輪を広げていくことが大切だ。